

世界自然遺產

小笠原諸島

OGASAWARA ISLANDS

World Natural Heritage



世界自

世界に誇る



自然遺産

感動がある

小笠原諸島

OGASAWARA ISLANDS

World Natural Heritage

目次

世界自然遺産の価値の紹介	3
エコツーリズムの紹介	5
イルカ・クジラ・ウミガメの紹介	7
海のアクティビティの紹介	9
陸のアクティビティの紹介	11
歴史・文化の紹介	13
イベント・グルメの紹介とシーズンカレンダー	15
父島・母島マップ	17



世界自然遺産としての

2011年6月、小笠原諸島は人類共通のかけがえない財産として、将来の世代に引き継いでいくため、世界自然遺産に登録されました。

小笠原諸島は東京から南に約1,000km、北から聳島列島、父島列島、母島列島、火山(硫黄)列島、沖ノ鳥島、南鳥島、西之島までを含む大小30あまりの島々からなる海洋島です。大陸と一度も陸続きになっただけでなく、海を越えて辿り着いた生きものは、競争相手が少ない中で島の様々な場所に分布を拡大しました。それぞれの場所で生活しやすい形へと進化した結果、現在は多くの固有種が見られ、植物(維管束植物)で36%、昆虫類では28%、陸産貝類では94%にもなります。

小笠原諸島の集落地などを除いた陸域と、一部海域は世界自然遺産の区域となっています。そのほか、63%は自然公園法による小笠原国立公園に、53%は林野庁による森林生態系保護地域に、南島と母島石門地区は東京都自然環境保全促進地域に指定されています。

また、南硫黄島は人が定住したことのない手つかずの自然が残り、国の原生自然環境保全地域に指定しています。

小笠原諸島の持つ価値

小笠原諸島では、海によって隔てられた小さな島において独自の進化を遂げた多くの固有の生きものや、それらが織りなす生態系を見ることができます。

小さな海洋島における生物の進化を示す典型的な見本として、世界的な価値を持つことが認められました。

もともと同じ種類の生きものが、環境の違いによって、そこに適した形や色へと変化し、多系統に分かれることを「適応放散」と言います。

例えば、小笠原諸島のカタツムリのうち、カタマイマイというグループは、木の上で暮らすものは淡い色の、土の上で暮らすものは暗い色の殻を持つなど、適応放散によって様々な種類に進化してきました。化石(貝殻)や今生きている種類を比較することにより、進化の歴史が分かります。

また、父島や兄島では、「乾性低木林」と呼ばれる背の低い林がたくさん広がっています。乾性低木林は、父島や兄島の乾燥した気候に合わせて、葉の形を変えるなどの進化をした固有の植物たちが生育しています。

適応放散のほかにも、草が樹木と変化したり、植物の雄雌が分かれるなど、海洋島に特徴的な進化様式を見ることができます。



コガネカタマイマイ(地上性(表性))



ヒメカタマイマイ(半樹上性)

小笠原諸島で適応放散により種分化したムラサキシブ属



ワダンノキ(草が樹木と変化したキク科)



シマムラサキ(乾性低木林の低木層に分布)



ウラジロコムラサキ(乾性矮低木林に分布)



オオバシマムラサキ(湿性高木林の林縁から乾性低木林の林冠に分布)



小笠原諸島。その価値。



乾性低木林



石灰岩カルスト台地(石門)



枕状溶岩



ヒロベソカタマイマイの半化石(南島)



「ラビエ」と呼ばれる石灰岩の奇石(南島)



かけがえのない 自然を守るために

小笠原のエコツーリズム

Ecotourism

小笠原のエコツーリズム

小笠原村では、地域の自然資源や歴史文化資源を保全しながら、継続的に利用していくためにエコツーリズムの実践が進められています。

昭和63年（1988年）に日本で初めてホエールウォッチングが行われ、自主ルールが定められたのを皮切りに、今ではクジラだけでなく、小笠原諸島本来の自然の姿を保ちながら観光客の方にも楽しんでいただくために、天然記念物や絶滅危惧種などにも自主ルールやガイドラインが定められています。南島、母島石門一帯のほか、遊歩道以外の指定ルート利用においても許可を受けたガイドの同行が必要です。決められたルートから踏み出さないようにする、ガイドの指示に従うなど、ルールを守って小笠原諸島の自然を楽しんでください。

法令・制度	自主ルール
<ul style="list-style-type: none"> ①小笠原国立公園（自然公園法） ②保護林制度（森林生態系保護地域） ③種の保存法（国内希少野生動植物種） ④文化財保護法（国指定天然記念物） ⑤南島・石門に関するルール 	<ul style="list-style-type: none"> ①小笠原カントリーコード ②ホエールウォッチング自主ルール ③ドルフィンスイム・ウォッチング自主ルール ④ナイトウォッチングの際にウミガメに遭遇した場合の自主ルール ⑤イシガキダイ・イシダイキャッチ&リリースの自主ルール ⑥オガサワラオオコウモリウォッチングの自主ルール ⑦東平アカガシラカラスバトサンクチュアリー ⑧グリーンベベ（ヤコウタケ）の自主ルール ⑨母島石門の自主ルール

小笠原カントリーコード ～自然と共生するための10か条～

- ①貴重な小笠原を後世に引き継ぐ
- ②ゴミは絶対に捨てずに、すべて持ち帰る
- ③歩道をはずれて歩かない
- ④動植物は採らない、持ち込まない、持ち帰らない
- ⑤動植物に気配りをしながらウォッチングを楽しむ
- ⑥サンゴ礁等の特殊地形を壊さない
- ⑦来島記念などの落書きをしない
- ⑧全島キャンプ禁止となっているので、キャンプはしない
- ⑨移動はできるだけ自分のエネルギーを使う
- ⑩水を大切にし、トイレなど公共施設をきれいに使う

⚠ 外来種の侵入を防ぐためにご協力ください

本来小笠原諸島にいない生きものを持ち込んだり、他の島や山の中に拡げたりしないよう注意してください。船に乗る前や、山の中に行くときには、靴底の泥や服・かばんに種や虫などが付いていないか、チェックしましょう。



母島への外来種の移動を防ぐために、ははじ丸の乗船時には靴に付いた泥を落としましょう。

【地域での取り組み】

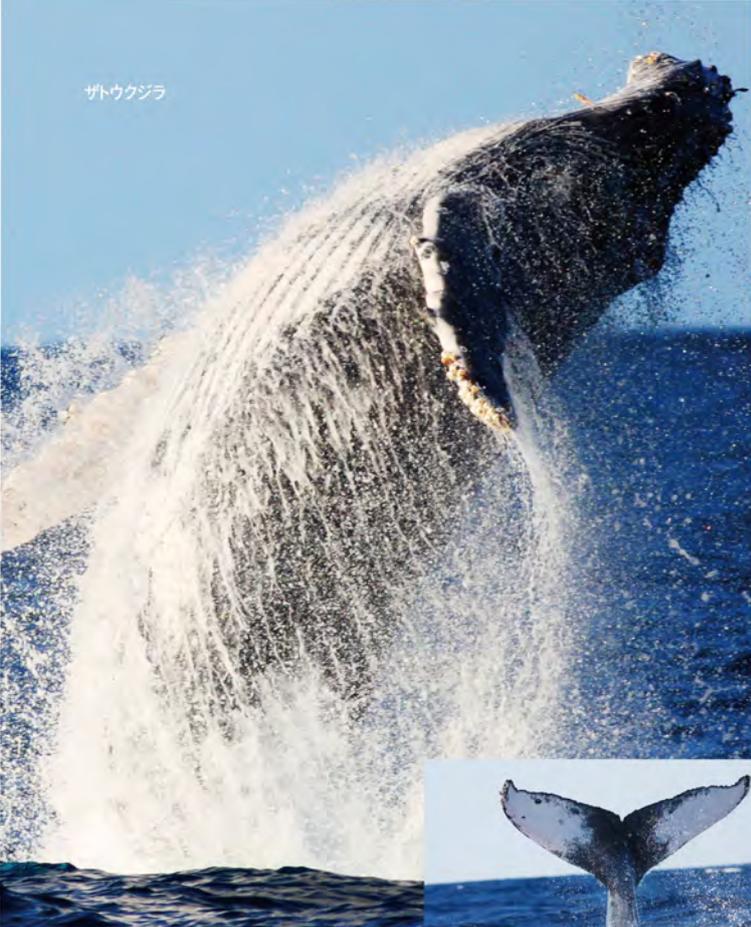
小笠原諸島では、世界自然遺産として認められる自然を持つ一方、人によって他の土地から持ち込まれた外来種が、固有の生きものに大きな影響を与えています。

小笠原村では、村民をはじめ地元NPOや環境省、林野庁、東京都と協力して、外来種の駆除や持ち込み防止に向けた取り組みなどを行っています。



属島へ行く際には、靴底の泥や種などを念入りに落とします。

ザトウクジラ



マッコウクジラ

ホエールウォッチング

Whale Watching

圧倒的な風格と迫力で見ると見る者の心を揺さぶるのは、地球上最大の生きものであるクジラたち。2～4月（ベストシーズン）はザトウクジラが、5月～11月はマッコウクジラがウォッチングできます。

特にザトウクジラは、小笠原のホエールウォッチングの代表的存在。ブリーチと呼ばれるジャンプや胸びれ・尾びれで海面を叩くなど、様々なアクションで楽しませてくれます。海を見渡せる高台からであれば、陸からの観察も可能です。潜水のチャンピオンと言われるマッコウクジラは、沖合10～30kmの外洋域で見られます。尾を海面上に高々と持ち上げ、深海へ静かに潜りこんでいきます。



ザトウクジラ



海よりも「地球」を

ボニンブルー^{*}の海で、地球の仲間たちと出逢う。

ドルフィンスイム & ウォッチング

Swim with Dolphins & Watching



ミナミハンドウイルカ



ハシナガイルカ



ミナミハンドウイルカ

小笠原諸島近海では野生のイルカに一年を通じて会うことができます。船からのウォッチングが楽しいのはハシナガイルカ、前転やバク転、体をきりもみ状に回転させながらジャンプを見せてくれることもあります。ミナミハンドウイルカに出会えたならば、ドルフィンスイムにチャレンジ。人とよく一緒に遊んでくれるので、フィーリングが合えば近寄ってくれるかもしれません。

アオウミガメ *Green turtle*

小笠原諸島は日本で最大級のアオウミガメの繁殖地です。6~7月頃に産卵、8~9月頃に孵化します。



感じる大パノラマ

*ポニンブルー：小笠原諸島の英名はBonin islandsです。これは日本語の「無人島(ぶにんしま)」に由来します。小笠原諸島独特の濃く深くどこまでも透き通った青色を、この島ではポニンブルーと呼びます。



ダイビング *Diving*

父島列島、母島列島、髙島列島には潜るスポットが多数点在。嫁島のマグロ穴では、夏から秋のシーズンにイソマグロの群れに囲まれる可能性もあります。母島も四本岩で巨大イソマグロが多数回遊するほか、美しいサンゴ礁で人気の妹島のブルーリボン、大型回遊魚が見られる向島のニシバナなど、ダイバーなら一度は潜ってみたいと言われる場所です。ダイビング中にマンタやアオウミガメに遭遇する偶然も小笠原ならではのです。



小笠原の海のアクティビティ

どこまでも濃く深く透き通り、カラフルなサンゴ礁や熱帯魚、大型の魚の回遊など、ダイナミックな光景が楽しめる小笠原の海。黒潮から外れており、ミクロネシアからの海流の影響を受けている日本唯一の海では、様々な海のアクティビティが楽しめます。

「地球」と遊ぶ



ロクセンスズメダイ

フィッシング *Fishing*



カッポレ

釣り愛好家にたまらないのが、磯から狙うイシガキダイ、そして釣船で出かける洋上でのカンパチなどの大物釣り。このほかにもシマアジ、バラハタ、ヒメダイ、カッポレ釣りなどが楽しめます。レンタル竿も利用できますので、防波堤などでメアジ、シマアジ釣りなど初心者でも気軽に楽しめます。

「地球」と泳ぐ



海水浴 & シュノーケリング *Sea Bathing & Snorkeling*

小笠原にはシュノーケリングでも十分に楽しめるポイントがいっぱい。波打ち際にも魚たちは泳いでいますので、海水浴とシュノーケリングが同じビーチで楽しめます。



紺青の海をすべるように進むシーカヤック。エンジンを使わない自然に優しい方法で、海上クルージングや透明度の高い透き通った海中の眺めが楽しめます。乗り方はいたって簡単、ガイドに指導してもらえば初心者でも安心です。シーカヤックでしか辿りつけないビーチに上陸できるかも。



シーカヤック *Sea Kayak*

地球地球 を歩く に学ぶ

小笠原の陸のアクティビティ



森・山歩き *Field Trekking*

小笠原諸島は、大陸と一度も陸続きになったことがないため、海流、風、鳥などによって運ばれてきた動植物は独自の進化を遂げました。原生状態を保つ亜熱帯の森と山を、固有の動植物や鳥をウォッチングしながらのハイキングやトレッキングは、驚きと感動がいっぱいです。



固有種 & 希少種

Endemic & Rare Species



アカガシラカラスバト(天然記念物・希少種)
ハトの仲間としてはやや大型で、全身が金属光沢を帯びた黒色、頭部は赤紫色、喉はブドウ褐色。



ハハジマメグロ(特別天然記念物・固有種・希少種)
小笠原村の鳥に指定されている。その名の由来にもなっている目の周囲の三角状の黒い斑紋が特徴。



オカヤドカリ(天然記念物)
その名の通り陸上部で生活する。他のヤドカリよりも脚や鉄脚が太く頑丈。



オガサワラシジミ(天然記念物・固有種・希少種)
光沢のある小笠原の空のような青色が美しい蝶。



ハハジマノボタン(固有種・希少種)
母島の乳房山・塚ヶ岳などで見られる。7月頃に淡桃色の5弁の花をつける。



ムニンノボタン(固有種・希少種)
父島でわずかに見られる。8月頃に白い4弁の花をつける。



アサヒエビネ(固有種・希少種)
8月頃に美しい淡黄色の花をつける。



ムニンフトモモ(固有種・希少種)
樹高は6mにも達し、9月頃に真っ赤な花をつける。



ワダンノキ(固有種・希少種)
母島の乳房山・塚ヶ岳などで見られる。キク科でありながら樹高は5mにも達する。



ムニンツツジ(固有種・希少種)
父島の躑躅山にのみ自生株が見られる。4月頃に純白の花をつける。



タコノキ(固有種)
小笠原村の木に指定されている。タコの足のように気根を広げることからこの名がついた。



マルハチ(固有種)
大形の木性シダで、その名の通り葉痕が円の中に逆さ八の字の模様になってみえる。



シマホルトノキ(固有種)
母島では、桑ノ木山や石門山地域に生育し、巨木化している。島では「コブノキ」とも呼ばれる。



テリハハマボウ(固有種)
一年中花が見られる。この花は朝のうちは黄色だが、夕刻になるとつれ赤く変化する一日花である。



シマウツボ(固有種)
2月頃に地面から生える、黄金色をした寄生植物。



タチテンノウメ(固有種)
乾燥した岩石地に生える。春に純白の小さな花をつける。



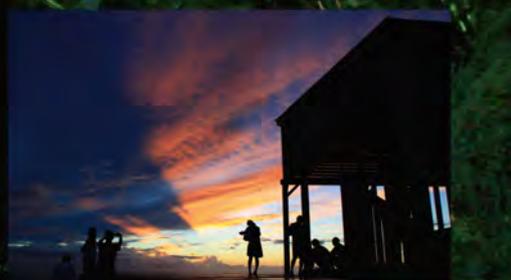
ムニンヒメツバキ(固有種)
小笠原村の花に指定されている。初夏に一斉に白い花を開花させる。



ムニンシュラン(固有種)
薄暗いやや湿った林内に群生する。花期は12月頃。

ナイトツアー

Night Tour



三日月山展望台(父島)

夕陽

Sunset

日没の頃、西の空が赤く染まりだしたら、幻想的な光のショーのはじまりです。



サンセットシアター(母島)



旧ヘリポート(母島)

陽が沈み、夜の帳が下りると、空には満天の星が姿を現します。天の川が輝く夜の森でほのかに緑に光るのはグリーンペベ、運が良ければオガサワラオオコウモリなど夜行性の生きものの観察もできるかもしれません。



グリーンペベ(正式名ヤコウタケ)



オガサワラオオコウモリ(天然記念物・固有種・希少種)

History

歴史



嘉永6年(1853年)ペリーに随行したW.ハイネが描いた二見港野山村付近の天然のトンネル

小笠原諸島は、文禄2年(1593年)、信州深志(松本)の城主小笠原長時の曾孫、小笠原貞頼が発見したと伝えられています。最初の定住は江戸時代の天保元年(1830年)のことで、欧米人5人と太平洋諸島民を含む20数人でした。国際的に日本領土として認められたのは明治9年(1876年)です。



文久2年(1862年)母島沖村の様子

大正後期には、亜熱帯性気候を生かした果樹や冬野菜の栽培が盛んになり、カツオ、マグロ漁のほか、捕鯨、サンゴ漁などが行われ、人口は7,000人を超え、大いに発展しました。



ザトウクジラ

捕鯨

小笠原諸島近海で外国船による捕鯨が行われていたことが、まず欧米人が定住するきっかけとなりました。その後、文久3年(1863年)、ジョン万次郎(中浜万次郎)が威臨丸にて、日本人で初めての洋式捕鯨を行いました。戦前戦後を通じて行われた捕鯨の歴史は、昭和62年(1987年)で幕を閉じましたが、昭和63年(1988年)4月、我が国最初のホエールウォッチングが母島近海で行われました。現在では、クジラを「食べる」資源から「観る」資源として、自主ルールのもと180度方向転換し、活用しています。

小笠原をもっと



戦前の父島大村全景



戦前のカヌーの様子



戦前の島民の家



戦前の父島大村の街

太平洋戦争を境に、豊かで平和な島は大きく変わります。昭和19年(1944年)には、軍属等825人を除く島民6,886人は本土へ強制疎開を命じられ、軍事一色に染まっていきました。硫黄島は本土防衛の最前線となり、日米両軍合わせて28,721名の命が奪われました。



硫黄島(樺鉢山山頂)

戦後は米軍の占領下におかれ、23年後の昭和43年(1968年)、小笠原諸島は日本に返還され、父島と母島の島民の帰島が許されました。硫黄島は返還後も火山活動など自然条件が厳しいとの理由により一般島民の帰島は実現しておらず、現在は自衛隊の基地が置かれています。昭和54年(1979年)4月に村政が確立され、自然と共生する村を目指して、新しい村づくりが始まりました。

小笠原村平和都市宣言

平和で豊かな自然の中で暮らす我々小笠原村民は、世界中の人々が平和を分かちあえることを願う。この願いは、小笠原の生い立ちが物語っている。我々の先人が築いた文化を、歴史的に分断した強制疎開。今なお一般住民の帰島が許されず、遺骨収集もままならぬ玉砕の地硫黄島。このような地小笠原に生きる者として、戦後五十年を迎えるにあたり、不戦と恒久平和を誓い、豊かな自然を後世に残すために、小笠原村が平和都市であり、またその使命を全うすることを宣言する。

平成七年八月十五日
小笠原村



スティールパン

ドラム缶から作られた音階のある打楽器で、独特の響きを持った音色は小笠原の雰囲気にとピッタリです。

小笠原は特異な歴史を辿ったことで、西洋や南方などの多様な文化が融合し、独自の文化が生まれ育まれてきました。

南洋踊り(返還直後)



南洋踊り&KAKA

小笠原における南方文化の伝播の歴史を知ることのできる貴重な踊りで、東京都無形民俗文化財に指定されています。タマノの木をくり抜き、ギンネムの木で叩いている打楽器「KAKA(カカ)」の演奏で踊ります。

知りたい

小笠原の歴史と文化

フラ

小笠原オリジナルの歌と踊りによるフラは、ハワイをはじめとする環太平洋の人々が、それぞれの島を誇りに思い、その島のために踊り歌う姿勢を見習うことで始まりました。



タコノ葉細工

タコノキの葉を用いて製作する小笠原独特の編物細工です。小笠原諸島に初めて定住したハワイ人が作っていた敷物や籠が、工夫と改良により現在の民芸品となりました。



小笠原太鼓

八丈島からの移住者とともに伝わったもので、全国でも珍しい両面打ちです。

文化 Culture

1月1日

日本一早い「海びらき」(父島・母島)

父島:海びらき神事、招福もちまき、初泳ぎ証明書の発行、ウミガメ放流、郷土芸能披露など
母島:新春鏡びらき、初泳ぎ証明書の発行、カヌー競漕、ウミガメ放流、郷土芸能披露など



6月下旬

返還記念祭(父島・母島)

父島:村民によるステージ、特産品PR、夜店など
母島:盆踊り、花火、演芸大会、郷土芸能披露、夜店など



7月下旬

小笠原貞頼神社例大祭(父島)

神輿、人力発見海洋レースなど



8月

サマーフェスティバル(父島)

盆踊り大会、花火大会、JAMMIN(村民音楽イベント)、ウミガメ放流、南洋踊り&KAKA、フラ・オハナ(小笠原フラの披露)、野外映画会、ビーチバレー大会、星空観望会など



サマーフェスティバル(母島)

スターウォッチング、納涼祭(盆踊り、花火、子ども輪投げなど)



11月1~3日

大神山神社例大祭(父島)

奉納相撲大会、演芸(カラオケ)大会、神輿など



11月23日

月ヶ岡神社例大祭(母島)

神輿、演芸大会、チンドン屋など



楽しい

イベントがいつぱい
観て、聴いて、参加して
小笠原の文化を
体感しよう!

12月

クリスマスイルミネーション(父島・母島)



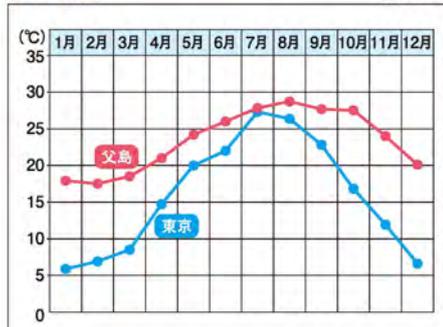
12月31日

カウントダウン(父島)



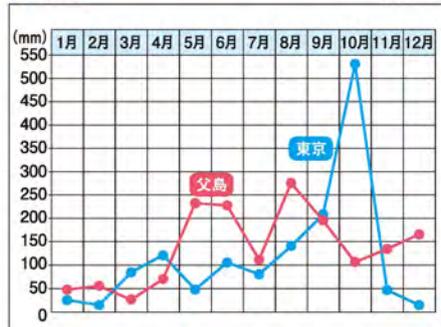
■平均気温

(2017年)



■降水量

(2017年)



■平均水温

(2017年)





シカクマメ

さやの断面が四角で、角の部分に翼状のひだがついていることが、「シカクマメ」の名前の由来です。味はあっさりとしていて、サヤインゲンと同じような使い方(天ぷら、炒め物など)で食べられます。



ラム酒

サトウキビを原料とした小笠原の地酒。ラム酒に特産のパッションフルーツを加えたパッションフルーツリキュールもあり、爽やかな味わいで人気があります。



海底熟成ラム酒「Mother」

母島の海底に1年間沈め、波の揺らめきによって熟成が進んだ特別なラム酒。毎月ダイバーによって引き揚げるため本数限定となっています。

味あろ

魅惑の小笠原グルメを

亜熱帯の小笠原では、その特徴的な気候・風土・歴史を反映した様々な味覚を堪能できます。

パッションフルーツ

芳香が強く、甘味と酸味のバランスが絶妙でジューシーさが人気です。黄色い果肉を種ごといただきます。



島寿司

サワラなどの白身魚を醤油漬けにしたにぎり寿司。ワサビの代わりに洋がらしを使うのが特徴です。

ウミガメ料理

伝統的な郷土料理で、お祝い事やお祭りがあると振舞われます。父島は塩味、母島は醤油味で煮込みます。



トマト

「島トマト」として親しまれており、甘味があり、苦手な人でもフルーツ感覚で楽しめます。



島レモン

通常のレモンとは異なる種類のもので、よりまろやかな酸味と爽やかな香りです。青いうちが食べ頃。焼酎に浮かせると絶品。ジャム等の加工品も人気があります。



アカバの味噌汁

島では「アカバ」と呼ばれる「アカハタ」をぶつ切りにして、味噌汁に仕立てたもの。風味豊かな魚の香りとタマネギの甘さが絶妙です。

■ シーズンカレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
海の生物	アオウミガメ											
	ミナミハンドウイルカ・ハシナガイルカ											
	ザトウクジラ			マッコウクジラ						ザトウクジラ		
	ユウゼン玉				イノマダコ大群				孵化稚魚群舞			
	カンパチ		アカイセエビ				カンパチ					
マンタ(オニイトマキエイ)												
花期	タチテンノウメ				ムニンヒメツバキ				ムニンノボタン			
	ムニンシュラン		シマウツボ		ムニンツツジ		ハハジメノボタン		アサヒエビネ		ムニンフトモモ	
	ワダンノキ											
フルーツ・野菜	バナナ											
	ゴレンシ			トマト			パッションフルーツ			マンゴー		
	シカクマメ・オクラ						島レモン			ブタン		

母島

面積19.88km²、人口480人
(平成30年3月1日現在)

父島からさらに南へ約50km。南北に細長い島です。標高約463mの乳房山は母島列島の最高峰、島の周囲は約58kmでほとんどが急峻な崖となっています。自然植生は父島の乾性低木林に対し、母島では湿性高木林と対照的です。島内の移動は、徒歩または有償運送、レンタカー、レンタバイク、レンタサイクルなどを利用してください。(バスやタクシーはありません。)



北村小学校跡



石門(入口)
ガイドの同行が必要で、来島前に要予約。
(10月～2月まで入林禁止。3月は尾根道のみ利用可。)



北港



ロース記念館



御幸之浜



蓬莱根



南崎

母島には、13軒のお宿があります。
(最大収容人数164人 平成30年3月現在)
お問い合わせは
小笠原母島観光協会へ
TEL: 04998-3-2300
URL: www.hahajima.com



沖港船客待合所
所内にある母島観光協会

母島の公共機関などの連絡先 (市外局番04998)

●集落以外には、商店や自動販売機はありませんので、ご注意ください。	小笠原村役場母島支所	TEL: 3-2111	小笠原警察署母島駐在所	TEL: 3-2110
●公道・遊歩道以外の利用について 小笠原諸島の国有林の大部分は、森林生態系保護地域に指定されています。地図に記載されているルート以外への立ち入りは原則として禁止、またはガイドの同行が義務付けられていますので、ご注意ください。	小笠原村母島診療所	TEL: 3-2115	母島簡易郵便局	TEL: 3-2332
	夜間や休日などにおける救急	TEL: 119	JA東京島しょ小笠原母島店	TEL: 3-2331
	東京都小笠原支庁母島出張所	TEL: 3-2121		

世界自然遺産 小笠原諸島 への旅

OGASAWARA ISLANDS

How to Access

東京から南に約1,000kmの太平洋上に浮かぶ小笠原諸島への交通手段は、東京竹芝棧橋からの定期船「おがさわら丸」です。船は午前11時に出港し、翌日午前11時に父島・二見港に到着します。片道約24時間の船旅ならではの、ゆったりとした時間の流れをお楽しみください。



東京
竹芝棧橋

大島 東京～大島間
120km

三宅島 東京～三宅島間
185km

八丈島 東京～八丈島間
290km

鳥島

「おがさわら丸」ご乗船場所 東京港竹芝客船ターミナル

〒105-0022 東京都港区海岸1-12-2
TEL.03-3433-1251(代)

- JR: 浜松町駅北口下車徒歩約7分
- 地下鉄: 大門駅下車徒歩約8分
- ゆりかもめ: 竹芝駅下車徒歩約1分
- 東京モノレール: 浜松町駅下車徒歩約10分

小笠原諸島へのアクセス

「おがさわら丸」の乗船券は、小笠原海運株式会社へお問い合わせの上、お買い求めください。

春休み、ゴールデンウィーク、7・8月、年末年始はお早めのご予約をおすすめします。

母島へは父島から「ははしま丸」で約2時間。

東京からおがさわら丸が入港した日と父島から出港する日は接続運航しています。

詳しいスケジュールはお問い合わせください。

お問い合わせは

おがさわら丸 小笠原海運株式会社
TEL.03-3451-5171
<http://www.ogasawarakaiun.co.jp>
※一部旅行代理店やコンビニエンスストアの情報端末からも購入できます。

ははしま丸 伊豆諸島開発株式会社
TEL.03-3455-3090

本土発のツアー情報やイベント情報は

小笠原村観光局

TEL.03-5776-2422

<http://www.visitogasawara.com>

Facebook <http://www.facebook.com/visitogasawara>
twitter @theovtb



おがさわら丸で
24時間

東京～父島間
1,000km



ははしま丸で
2時間

聳島列島

父島列島

父島～母島間
50km

母島列島

小笠原諸島

北硫黄島

硫黄島

南硫黄島



【写真提供】

環境省
佐藤博志 (P7ザトウクジラ・マダライルカ)

【協力】

小笠原ホエールウォッチング協会
小笠原村観光協会
小笠原母島観光協会
小笠原村観光局

【発行】

小笠原村産業観光課

〒100-2101 東京都小笠原村父島字西町
TEL 04998-2-3114 FAX 04998-2-3222
URL <http://www.vill.ogasawara.tokyo.jp>
E-mail sankan@vill.ogasawara.tokyo.jp



このパンフレットは環境に配慮し、古紙配合率80%の再生紙とベジタブルオイルインキを使用しています。